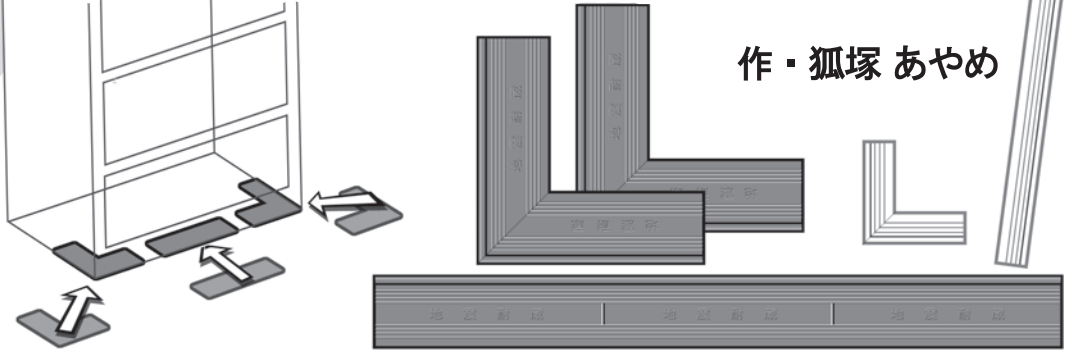


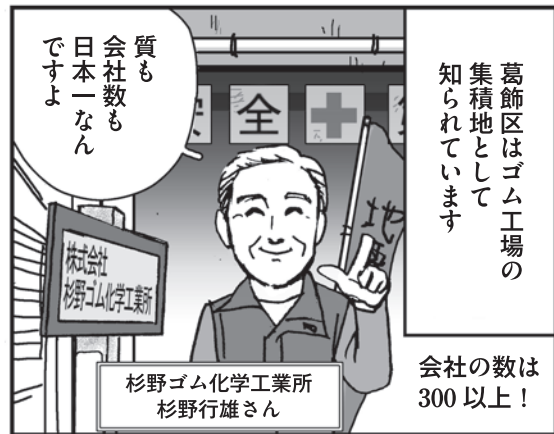
家具転倒防止用ゴム～地震耐蔵君～

葛飾ゴム工業会「地震耐蔵君」開発プロジェクト

作・狐塚 あやめ



景気の
良かった頃は
儲かる仕事
でしたが



「ゴム技術伝承セミナー」が始まりました！



葛飾ゴム工業会

環境・緑化フェアで
配布したところ
大好評！



子供にも
安心ね

ゴムの可能性を
見直すことができ
みんなのやる気も
出てきました

評判
よかったね

やった甲斐
あったツス



そして…

町内会防災部の
会合にて

防災士の
内山さん

なんで
すか



地震で転倒する
家具の下になり
ケガをする人が多く
多いんですって？

壁や家具を傷つけず
家具の転倒防止が
できるいいものは
ないのかな？

何かゴムで
考えてみますよ



セミナーでみんなの
アイデアが集まり
地震耐蔵君の開発が
始まりました

加工は大変だけど
再生天然ゴムを
使おう

家具や床に
色移りしないよう
研究しないと

摩擦力を
高めなく
てはいけない

有害物質を
排除しつつ
強度を保つのは
難しいツス



試作

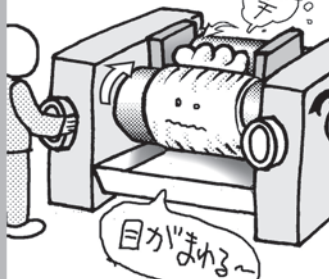
君が
ゴム

笑顔

適度な大きさに切断



ローラー状の機械で
よく練り込む

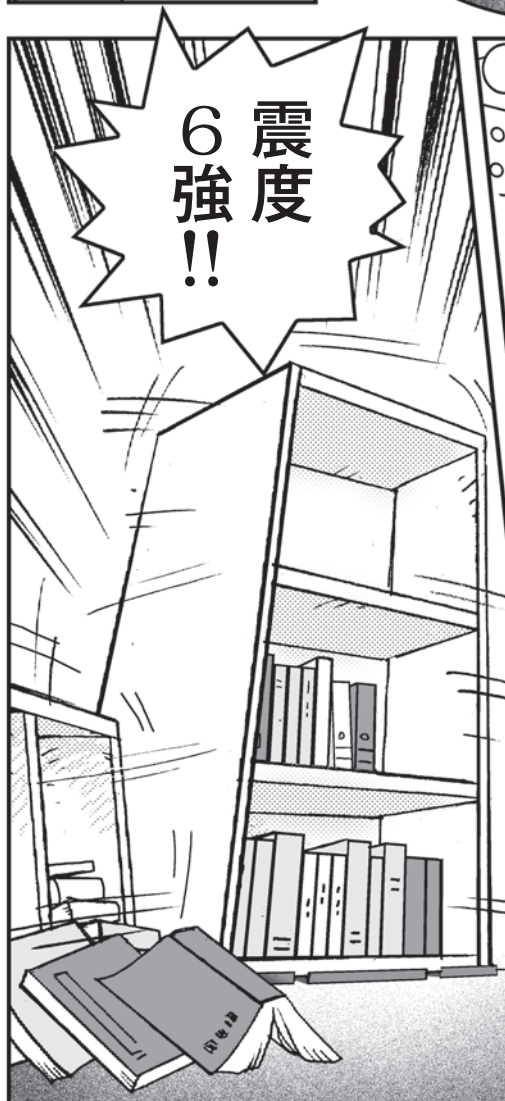
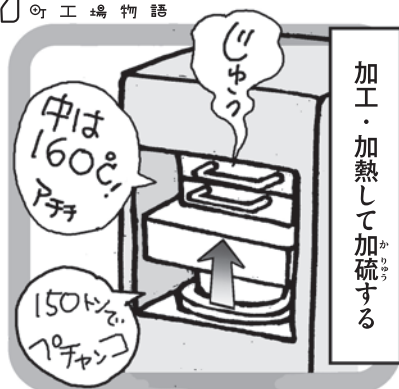


目がよる~

のびたよ

すぐ使うと弱いので
何日か寝かせる









KATSUSHIKA
町工場物語

認定

葛飾ゴム工業会「地震耐蔵君」開発プロジェクト 葛飾若手ゴム職人の底力が結実した家具転倒防止用 家具転倒防止用ゴム「地震耐蔵君」

認定品名

家具転倒防止用ゴム

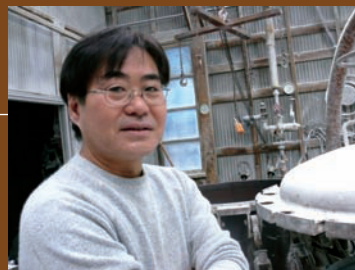
「地震耐蔵君」は、地震が発生した際、室内の家具の倒壊を防止するためのゴム具である。断面がくさび状に傾斜した幅約4.5cmのゴム板であり、家具前面の下側両端に設置するL型と、中央部に設置するI型の2つのタイプが

ある。ゴム特有の柔軟性と摩擦力を活かしたものであり、既存製品に比べ、大幅に性能が向上したばかりでなく、床材を選ばない、色移りしないという新たな利点も加えた。ゴム工場の集積地としても知られる葛飾の若手のゴム職人たちが結集し、熱い想いと知恵を結晶させて開発した製品である。

半透明のものをはじめ、さまざまな色の製品がある

葛飾ゴム工業会 「地震耐蔵君」開発プロジェクト

葛飾ゴム工業会の若手で結成していた「ゴム技術伝承セミナー」を母体とし、製品開発のために立ち上げたプロジェクトグループ。写真は開発プロジェクトリーダーを務める(有)内山ゴム製作所代表の内山氏。





「ゴム技術伝承セミナー」メンバーの みんなで研究・開発

開発のきっかけは、開発プロジェクトリーダー
内山氏（有）内山ゴム製作所代表の所属する
町会の防災訓練の会場で、家具転倒防止具
の性能などが話題になり、「家具や壁にキズを
付けずに取付け可能なものではないか」と
多くの人たちから相談されたことによる。さ
っそく、ゴム工業会の若手で結成していた「ゴ
ム技術伝承セミナー」に持ち帰り、みんなで検
討を始めた。再生天然ゴムを使用し、摩擦力
を高めるためのゴム素材の研究や色移りを無
くするための研究、鉛やカドミウムなど有害物質
を含まずに性能を維持する研究など多岐に
わたる研究を推進し、試作品を完成した。

（財）化学物質評価研究機構で性能試験を
行い、その後葛飾区の協力を得て、地震体験車
「震平くん」の上に地震耐蔵君を設置した家
具と何もしない家具を並べて性能を比較
するための公開試験を3度行った。いずれも
震度6まで大丈夫で、立ち合った人たちに性能
の違いが明らかにわかるほどの好結果となつた。
「地震耐蔵君」製品化成功のニュースが各種
メディアで伝えられた後、区内各所の町会や
武蔵野市の町会、豊島区の防災課などから注
文や問い合わせがきた。「豊島区では、本製品
を正式に採用し、要介護者世帯400世帯に納
入してくれるとのことだ」と開発プロジェクト

のコアメンバーである杉野氏（株）杉野ゴム化
学工業所代表）もうれしさを隠さない。大手
都市型ホームセンターでの販売の話も順調に
進行しており、時期が来れば確実に店頭に並
ぶとのことである。

「ゴム技術伝承セミナー」 設立の経緯

そもそも、この開発プロジェクトの母体となつ
た「ゴム技術伝承セミナー」とはどんな経緯で
設立されたものなのか。

「6年ほど前に、自分と内山さんがみんなに
声をかけて始めたものです」と杉野氏。

中国製品の台頭など経営環境が年々厳しく
なる中、区内ゴム工業会の若手経営者たちも
みんな元気を失っているようにみえた。そこで、
みんなで集まり腹藏なく悩みや意見をぶつけ
合える場を作ろうと呼びかけた。月1回のセ
ミナーという形にしたが、最初は集まりが悪
く、継続していけるのかと心配になったという。
回を繰り返すうちに徐々に人数も増え、お互
いに腹を割って話せる雰囲気もできてきた。現
在では、25社程度が常時参加するようになつ
た。若手とはいっても年齢構成は20代から70
代まで幅広い。年齢に関係なく、遠慮なく言
いたいことを言い合えるのがいいところである。

「みんなで盛り上がるのが大事」

10月中旬の3日間、テクノプラザかつしかは

毎年恒例の葛飾産業フェアでにぎわう。さまざ
まな工業団体に区切られた数多くのプー
スに混じって、ゴム工業会のブースでは、若手
経営者を中心とした人々が大きな声で客寄
せを行い、中心のお客である区内小学生た
ちに、新たに開発した「スーパーボール入りゴ
ムヨーヨー」を無料で配布し、ひときわにぎわ
っていた。

「こうやってみんなで盛り上がるのが大事。
仕事が少なくなつたとひとりでは悩むより、み
なでいっしょに悩む方が解決の糸口が見つかり
やすいはず」と杉野氏は、区内のものづくり全
般の活性化を願い、熱く訴えかけている。



プロジェクトのコアメンバーのひとり、（株）杉野ゴム化学工業所代表の杉野氏。熱意と実行力で若手グループを強力にリードしている